

事例番号:310284

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 29 週 0 日

22:35 出血混じりの帯下および腹部緊満感あり、搬送元分娩機関に入院

4) 分娩経過

妊娠 29 週 1 日

5:05 破水したため当該分娩機関に母体搬送され入院

12:59 胎児機能不全のため帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:29 週 1 日

(2) 出生時体重:1352g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.292、PCO₂ 34.6mmHg、PO₂ 21.6mmHg、
HCO₃⁻ 16.200mmol/L、BE -9.1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 3 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(ハックル・マスク、チューブ・ハックル)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 早産児、極低出生体重児、呼吸窮迫症候群

生後 73 日 退院

生後 10 ヶ月 右上肢屈曲させづらい、両下肢は軟らかく自発運動乏しい
1 歳 1 ヶ月 右片麻痺を上肢に強く認める

(7) 頭部画像所見:

生後 66 日 頭部 MRI で、先天性の脳障害を示唆する所見なし、大脳基底核・
視床における明らかな信号異常を認めず

6) 診療体制等に関する情報

〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:看護師 1 名、准看護師 1 名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 2 名

看護スタッフ:助産師 5 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 29 週 0 日搬送元分娩機関受診時の対応(血液検査)は一般的である。

(2) 出血混じりの帯下および腹部緊満感が認められる状況で搬送元分娩機関
に入院としたこと、および入院後の対応(パルスオキシメータ測定、分娩監視装置装着、
リトドリン塩酸塩注射液の投与)は、いずれも一般的である。

(3) 妊娠 29 週 1 日 3 時 35 分に破水が認められ、当該分娩機関へ母体搬送とし

たことは一般的である。

- (4) 当該分娩機関入院後の管理(バイタルサイン測定、超音波断層法、抗菌薬投与、子宮収縮抑制を終了し陣痛発来するか経過観察としたこと)は一般的である。
- (5) 12時37分に胎児機能不全の適応で帝王切開を決定したこと、および手術にあたって書面を用いて詳細に説明したことは、いずれも一般的である。
- (6) 帝王切開決定から22分後に児を娩出したことは適確である。
- (7) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (8) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して
なし。